

Anniversary Special Concert 30th

International Music Festival

30周年記念特別演奏会

国際親善交流特別演奏会

2017.11.9 木

開演 18:30 (開場18:00)

全席指定 S: ¥6,000 A: ¥5,000 B: ¥4,000

東京芸術劇場コンサートホール (池袋西口)

東京都豊島区西池袋1丁目8-1 Tel. 03-5391-2111 (代)

6:30 p.m. THURSDAY, NOVEMBER 9, 2017, AT TOKYO METROPOLITAN THEATRE



及川光悦 指揮

Mitsuyoshi Oikawa Conductor

Program

モーツァルト作曲: ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K.447

ホルン: ヤヌシュ・ピオトル・スタネッキ

MOZART: HORN CONCERTO No.3 IN E FLAT MAJOR, K.447

Horn: JANUSZ PIOTR STANECKI

モーツァルト作曲: ピアノ協奏曲 第27番 変ロ長調 K.595

ピアノ: ゲルガナ・ネストロヴァ

MOZART: PIANO CONCERTO No.27 IN B FLAT MAJOR, K.595

Piano: GERGANA NESTOROVA

— 休憩 (INTERMISSION) —

チャイコフスキー作曲: 交響曲 第4番 へ短調 作品36

TCHAIKOVSKY: SYMPHONY No.4 IN F MINOR, OP.36



Janusz Piotr Stanecki

ヤヌシュ・ピオトル・スタネッキ



Gergana Nestorova

ゲルガナ・ネストロヴァ

演奏 モーツァルト・ヴィルトゥオーゾ祝祭管弦楽団

Mozart Virtuoso Festival Orchestra

お問い合わせ・チケット申し込み

日本音楽文化交流協会 TEL/FAX 03-3442-2325

東京芸術劇場ボックスオフィス TEL 0570-010-296

主催: 国際親善交流特別演奏会実行委員会 日本音楽文化交流協会 日本・ポーランド協会 TEL/FAX 03-3442-2325

後援: 外務省・文化庁・厚生労働省・国際交流基金・日本赤十字社・ポーランド共和国大使館・ポーランド広報文化センター・ブルガリア共和国大使館・朝日新聞社・TOKYO FM

特別協賛: meiji 株式会社 明治

協賛: 富士ゼロックス株式会社・みずほ証券株式会社・三菱電機株式会社・協和発酵キリン株式会社

協力: サッポロビール株式会社・日本コカ・コーラ株式会社・メルシャン株式会社

※出演者・曲目等が変更される場合がありますのであらかじめご承知おき下さい。

※障害者、養護施設、母子家庭、高齢者、大震災避難者の方々を御招待致します。

※未就学児のご入場はご遠慮ください。

出演者プロフィール



指揮 及川光悦

Mitsuyoshi Oikawa Conductor



1949年、北海道に生まれる。5歳よりピアノを学び、10歳の時、テレビ出演を機会に音楽家を志す。1967年、東京音楽大学器楽科、桐朋学園指揮教室入学。1975年8月、フランス・ニース国立音楽院主催国際指揮講習会を受け好評を博す。1975年10月、研究科在学中に推薦されパリ留学。エコール・ノルマル音楽院にてピエール・デルポー氏に師事、スコラ・カントルム音楽院指揮科・ピアノ科入学。1976年、ザルツブルグ・モーツァルト音楽院主催の国際指揮講習会を受けオトマール・スイトナー氏に師事、大いに才能を認められる。1977年帰国、故岩城宏之氏に認められ札幌交響楽団において研鑽、数多くの演奏会に出演する。1978年、小澤征爾氏に師事。同年「札幌市芸術文化振興基金第1号」を受けアメリカ留学。

小澤征爾氏のもとで研鑽を積む。1982年、「芸術家在外研修員」として文化庁によりミュンヘンへ派遣される。受入れ先であるクーベリックのバイエルン放送交響楽団、チェレビダッケのミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、サバリッシュのバイエルン国立歌劇場管弦楽団にて各氏に師事、伝統的なドイツ音楽を吸収する。又ベルリン・フィル、ミラノスカラ座、パリオペラ座、パイロイト音楽祭、ペローナ音楽祭、ザルツブルグ音楽祭のリハーサル・本番・レコーディングに立ち会い研鑽を積む。1983年8月帰国、ただちに東響でデビュー。都響、札幌、京響、新星日響、群響、神奈川フィルで共演、放送・レコーディングで活躍。1986年7月、日中文化交流の一端として中国から招待され、中国電影楽団、上海楽団と共演、交響組曲「東京」～「こもりうた・外山雄三作曲」の海外初演をはたし熱烈な歓迎を受ける。帰国後、日本テレビ「11・PM」、FM東京「世界の音楽をあなたに」出演、中国音楽界を紹介する。1987年9月・10月、前年に引き続き中国より招待され、日本政府（外務省）・国際交流基金の援助のもとで中国電影楽団、上海電影楽団と共演して絶賛を博し、両楽団より「常任客演指揮者」の称号を贈られ両国の文化交流に大きな役割を果たす。帰国後、FM東京「音楽の森」出演。1988年9月、中国電影楽団、上海電影楽団日中平和友好締結10周年記念・常任客演指揮者就任記念として、日本政府（外務省）・国際交流基金の援助のもと「文化使節」として公演し好評を博す。FM東京「モーニングジャーナル」・FMジャパン「ウェーブキャットフィッシュ」出演。1990年6月、チェコ・スロバキア（ズリーン）マルチヌーフィルハーモニー管弦楽団にてヨーロッパ楽壇デビュー。11月、中国（北京）中国電影楽団にて故園田高弘氏と演奏会開催。12月、ソ連「モスクワ放送交響楽団」、ウクライナ国立フィルハーモニーオーケストラ（キエフ）、ヤロスラブリフィルハーモニーオーケストラにて演奏会開催。1992年9月、中国（北京）・中国電影楽団にて日中外交正常化20周年記念特別演奏会を開催。10月、日本政府（外務省）・国際交流基金・ポーランド政府文化芸術省の援助のもとでポーランド・カトビツェ国立交響楽団と演奏会開催。1993年3月、現在世界で屈指のヴィルトゥオーゾ集団である「ロシア・ナショナル管弦楽団」にてロシアピアノ界の巨匠であるニコライ・ペトロフ氏と共演、ウリヤノフスク国立交響楽団と演奏会開催好評を博し日本・ロシアの文化交流に尽力。12月、ハンガリー文化教育省の後援のもとでフランク・リスト音楽院大ホールにてサント・ステファン交響楽団と共演。

1994年10月、日本政府（外務省）・国際交流基金の援助のもとで前年に引き続きハンガリー・サント・ステファン交響楽団と共演。ルーマニア文化省の後援のもとでヨーロッパの中でも長い伝統を誇る名門オーケストラ「ジョルジュ・エネスク・フィルハーモニー管弦楽団」と共演し、日本・ハンガリー・ルーマニアの文化交流、両国音楽家間の親善に大きく寄与。

1996年2月、ハンガリー・ドナウシンフォニックオーケストラと共演。1997年2月、日本政府（外務省）・国際交流基金の援助のもとでハンガリー・ソルノクシンフォニックオーケストラ、3月、ロシア名門オーケストラである「モスクワ・フィルハーモニー交響楽団」と共演し好評を博す。10月、名門オーケストラである「ブルガリア国立ソフィア交響楽団」と共演。帰国後テレビ朝日「徹子の部屋」に出演。1998年4月、ポーランド・アルトゥール・ルービンシュタイン・フィルハーモニックオーケストラと共演。1999年10月、日本・ブルガリア文化月間10周年記念・国交回復40周年記念公演に招聘され「文化使節」として名門オーケストラである「ブルガリア国立放送交響楽団」と共演。2000年、「文化庁舞台芸術創作奨励賞選考委員」就任。2001年5月、名門オーケストラである「サンクトペテルブルグ交響楽団」（旧レニングラード交響楽団）と共演。2002年6月、ブルガリア国立ソフィア交響楽団、ルーマニア「コンスタンツァ交響楽団・ガラツ交響楽団」と共演し大成功を収める。2002年10月、日本・ブルガリア文化月間に招聘され、「文化使節」としてブルガリア国立ソフィア交響楽団にてヴァイオリニストの天満敦子女士と共演。2004年4月、ブルガリア国立ソフィア交響楽団と共演、大成功を収め「常任客演指揮者」に就任。2005年5月、ブルガリア国立ソフィア交響楽団と共演。2006年6月、ブルガリア国立ソフィア交響楽団と共演。2009年11月、ブルガリア文化の発展と普及への功績に対して、ブルガリア共和国文化省より「名誉表彰状」と「名誉章」を授与される。2010年10月、ポーランド・トルン交響楽団と共演、ベルギー（ブリュッセル）にてトルン交響楽団と共演。2011年10月、ポーランド（ワルシャワ）ポメラニア・パデレフスキ国立交響楽団と共演。ベルギー（ブリュッセル）にてポーランドEU議長国就任記念コンサートに招聘されポーランド・ポメラニア・パデレフスキ国立交響楽団と共演。2013年1月～2月、豊島区制施行80周年記念に対して「感謝状」と「豊島区文化功労表彰」を授与される。10月～11月、社会福祉法人「東京都社会福祉協議会」社会福祉法人「横浜市社会福祉協議会」より永きに亘る福祉活動により「感謝状」を授与。東欧音楽家支援20周年記念として札幌市から「感謝状」を授与する。

2014年7月、ルーマニア政府より「文化功績勲章」を受章

Horn
ホルン



ヤヌシュ・ピオトル・スタネツキ
Janusz Piotr Stanecki

ヤヌシュ・ピオトル・スタネツキは1986年にビドゴシチで生まれ、10歳でホルンのレッスンを始めた。2010年にビドゴシチのフェリクス・ナワヴェジスキ音楽アカデミーを卒業し、優秀卒業生として同窓会名簿に名を連ねた。プロのホルン奏者としてのデビューは、トルン交響楽団で演奏した2006年であった。その後、2008年から2016年にはオペラ・ノヴァ・オーケストラのホルン奏者として活躍。現在は、ビドゴシチのイグナツィ・ヤン・パデレフスキ・ポメラニア交響楽団でホルンのソリストを務めている。

スタネツキは、カペラ・ビドゴスティエンシス並びにソポトのポーランド室内管弦楽団とも共演している。また、アントニー・ウィット、ヤツェク・カスプシク、ミコラ・ジャジュラ、ユージン・ツイガン、ユオザス・ドマルカス等の有名な指揮者とも共演している。

ポーランド国内はもとより、演奏活動はドイツ、オランダ、スペイン、オーストリア、中国に及ぶ。2013年には、ビドゴシチのイグナツィ・ヤン・パデレフスキ・ポメラニア交響楽団と共に、レインゴリト・グリエール作曲のホルン協奏曲を演奏した。2009年から2013年まで、トルン・ホルン・カルテットの一人として、トルン交響楽団、ジロナ・ゴラ交響楽団、フルミンスコ・マツルスカ交響楽団、ポメラニア交響楽団等と共演。2014年には、ノルトウッドシェ・ホラネージ（ドイツ）などのマスタークラスに参加した。2006年にクラクフの音楽サマー・アカデミーで、ラドヴァン・ヴラトコヴィチ、フロイド・リー・ウェックル、C.ランペール、A.マードロシアン、W.トロホウスキ、H.カワレヴィチ、J.ムジーク等と共に勉強した。2012年、スタネツキはビドゴシチのフェリクス・ナワヴェジスキ音楽アカデミーで指導を行うかたわら、博士課程で研究を始めた。

Piano
ピアノ



ゲルガナ・ネストロヴァ
Gergana Nestorova

ゲルガナ・ネストロヴァは1989年にブルガリアのネセバルで生まれた。ブルガスにある、「国立パンチョ・ヴラディゲノフ音楽舞台芸術学校」でジュリア・ネノバにピアノを学び、2008年に同校を卒業。2008年から2013年までは、国立音楽アカデミーでマリーナ・カパチンスカヤ教授の元で学んだ。2013年に修士号を取得し、現在は、パンチョ・ヴラディゲノフ音楽アカデミーのピアノ科で博士号の常連候補者となっている。

受賞歴としては、「ニコライ・ルビンスタイン・コンクール」（フランス パリ 2006年）、「カルル・フィルツ・コンクール」（ルーマニア シビウ 2005年）、「日本ブルガリア国際音楽コンクール」（ブルガリア ソフィア 2008年）、「サン・ダニエール国際ピアノ会議とコンクール」（イタリア フリウーリ地方サン・ダニエール 2012年）、「ディミタル・ネノフコンクール」（ブルガリア ラズグラッド 2014年）、「アルベール・ルーセル国際ピアノコンクール」（ブルガリア ソフィア 2016年）など数々の国際コンクールの受賞経験を持つ。

2010年には、オーストリアのザルツブルグ国際サマー・アカデミーの一人としてドミトリ・パシキロフ教授のマスタークラスに参加した。ネストロヴァは現在ソリストとして室内楽家として、様々なコンサート活動を行っている。「ヨーロッパ音楽フェスティバル」（ブルガリア ソフィア 2013年）、「国際ピアノニッシモ現代ピアノ音楽フェスティバル」（ブルガリア ソフィア 2011年・2015年・2016年）、「カチャ・ポボヴァ栄誉の日々音楽祭」（ブルガリア プレヴェン 2016年）にも参加している。

ネストロヴァはまたソリストとして、ヴァシール・カザンディエフ、イヴァン・コズハロフ、ヨルダン・ダフォフ、マルタン・パンテリエフ、ゲオルギ・パトリコフといった指揮者のもとで、ソフィア・フィルハーモニー管弦楽団、バザルジック交響楽団、シューメン・フィルハーモニック管弦楽団、シンフォニエッタ・ヴィディン、ブルガス・フィルハーモニック・オーケストラ、アカデミック・シンフォニー・オーケストラ等と共演している。

また、ブルガリア国営ラジオ及びブルガリア国営テレビで録音も行った。